月刊
新翔タイムズ
第24号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

バドミントン部全国大会出場

カヌー部、水泳部は近畿大会出場 高校総体結果

各クラブの高校総体の結果は次の通り。

【カヌー部】
▽K―2予選1組
④土尻・雑賀組2分02秒78（準決勝へ）
▽WK―1予選1組
②干場美幸2分28秒59（決勝へ）
▽K―1準決勝1組
②土尻涼介2分06秒22（A決勝へ）
▽K―1準決勝2組
⑥雑賀悠平2分18秒75（B決勝へ）
▽K―2準決勝1組
①土尻・雑賀組2分03秒46（決勝へ）
▽K―1B決勝
⑨雑賀悠平2分24秒19
▽WK―1決勝
②干場美幸2分38秒20（近畿大会出場）
▽K―1A決勝
⑤土尻涼介2分10秒99（近畿大会出場）
▽K―2決勝
⑦土尻・雑賀組2分09秒05（近畿大会出場）

【サッカー部】
5月29日、1回戦の串本古座戦は前半20分までに2点のリードを許す苦しい展開になったが、1点を返し1―2で後半を迎えた。一進一退の攻防が続く中で、後半中盤に1点をもぎ取りそのまま試合はPK戦にもつれた。PK戦は5―4で見事勝利した。
5月30日、2回戦の県和商戦は前半に3点のリードを許す非常に苦しい展開。後半は立て直し3点を返したが追加点を奪われ、3―4のスコアで惜敗した。

1回戦の串本古座戦

【ソフトテニス部】
▽男子団体1回戦
新翔2―1箕島
▽男子団体2回戦
新翔1―2神島
▽男子個人戦
ベスト64西地・西村
団体戦は惜しくも近畿大会出場を逃したが、チーム一丸となって戦うことができ、全力を尽くすことができた。この悔しさをバネに新チームでは先輩の分も頑張ります。
▽女子団体1回戦
新翔1―2箕島
▽女子個人戦
ベスト32小田・的場
ベスト64岩崎・中西
4人という少ない人数で活動してきた。団体戦では惜しくも1回戦で敗退したが、個人戦では各ペアが自己ベストを出すことができた。新チームでは1年生一人なので、ソフトテニスに興味のある人は入部して下さい。

【バスケットボール部】
▽男子1回戦
新翔90―72南部
▽男子2回戦
新翔40―100和北
▽女子1回戦
新翔22―114紀北工業
男子1回戦は、前半は相手にリードされながらも、第3ピリオドから新翔のペースで「走るバスケットボール」を展開して逆転勝利。2回戦はシード校の和北戦。スピード、パワーともに違いを見せつけられたが、試合をあきらめずに最後まで全力で頑張った。
女子は4月に1年生が入部しチームとして活動を始めたばかり。初めての公式戦であり、終始、相手のペースで試合を進められ完敗。今後一勝を目標に頑張ります。

【バドミントン部】
③男子団体
▽二回戦
新翔3―0熊野
▽準決勝
新翔2―3新宮
③女子団体
▽一回戦
新翔3―0和西
▽二回戦
新翔3―2海南
▽準決勝
新翔0―3那賀
〈男子ダブルス〉
②谷口大輝・三寸木巧組
〈男子シングルス〉
①谷口大輝
〈女子ダブルス〉
ベスト16鈴木まい・松本朋子組
今年は男女合わせて19人が出場。男女とも練習の成果を発揮し奮闘した。特に、男子ダブルスでは谷口大輝・三寸木巧組、男子シングルスでは谷口大輝が大健闘し、インターハイ出場を決めた。

谷口大輝（左）・三寸木巧組

【バレーボール部】
新翔2―0和歌山東
新翔0―2田辺
▽決勝トーナメント（ベスト16）
1回戦　新翔2―0那賀
2回戦　新翔0―2熊野
目標としていたベスト8には届かなかったが、3年生は最後の大会で、今までにない最高の試合をした。チームが一丸となり誰一人あきらめることなく最後まで戦い抜く姿は、今まで支えてくれた皆さんをも感動させた。これからは2年生が3年生の意志を引き継ぎ、頑張ってくれることを期待したい。

【ハンドボール部】
▽本戦一回戦
新翔23―32新宮
▽敗者戦二回戦
新翔21―26和歌山工業
この敗戦の悔しさをバネに新人大会に向けて頑張りたい。

【ラグビー同好会】
▽1回戦
新翔34―10新宮
▽2回戦
新翔0―94田辺
同好会2年目を迎え新宮に公式戦初勝利。2回戦で優勝候補筆頭の田辺には大差で敗れたが、随所に意地のタックルがあり、1年2カ月の練習の成果が出た。今後ベスト4の目標、クラブ昇格に向けて頑張りたい。

1回戦の新宮戦

【弓道部】
本年度は、男子個人と女子団体・個人に参加。結果は、本来の力が発揮できず予選敗退となった。

【空手道部】
③女子団体組手
男女個人組手の部に参加するが、3回戦でいずれも敗退。

【剣道部】
▽女子個人戦
堀　早希（3年）2回戦進出
初戦で3年間の地道なけいこが功を奏し、相手選手に競り勝った。2回戦では力及ばず敗退。選手の健闘は1回戦敗退で終わった昨年から大きな1歩となった。

【柔道部】
〈男子団体戦予選Aリーグ〉
▽第一試合
新翔0―5箕島
▽第二試合
新翔0―5耐久
▽男子個人戦60キロ級
坂藪　一回戦敗退
川村　一回戦敗退
▽男子個人戦81キロ級
山口　二回戦敗退
今年も一つでも多く勝てるように他校との合同練習に参加し、一生懸命練習に取り組んできたが、大変悔しい結果になった。来年は今年よりもいい結果が残せられるよう日々、けいこに精進していきたい。

【水泳部】
▽菅眞旬二（3年生）
⑧100㍍平泳ぎ　1分18秒83
⑥200㍍平泳ぎ　2分52秒03
▽松本あゆみ（3年生）
⑤100㍍バタフライ　1分37秒34
⑦200㍍背泳ぎ3分47秒65
▽小出亮（1年生）
⑧400㍍自由形　4分48秒03
3人とも、7月22日（木）～24日（土）に神戸ポートピアプールで開催される近畿大会に出場。

【卓球部】
4～5日、和歌山県立体育館で開催。
▽女子団体戦
新翔1―3星林
〈個人戦〉（主な結果）
▽男子シングルス
橋本真勇　3回戦進出
伊澤　毅　2回戦進出
▽女子シングルス
塩﨑裕美　2回戦進出
▽男子ダブルス
橋本、伊澤組　3回戦進出
今大会を振り返って、女子の団体は近畿大会出場の権利をもつベスト8レベルに近づいていると感じた。また9月の選手権大会、11月の新人大会に向けて努力をしていきたい。

【陸上競技部】
残念ながら近畿大会への出場権は得られなかった。しかし1・2年生にとっては夏の新人大会に向けて収穫のある試合であった。この悔しさを忘れず、今後の練習に取り組んでいきたい。
また3年生は、全員が11月に行われる駅伝競走大会まで競技を続ける。今回は満足いく走りができなかったと思うので、駅伝では3年間の集大成として悔いの残らない走りをしてもらいたい。

進路学習に取り組む

就職活動パワーアップセミナー

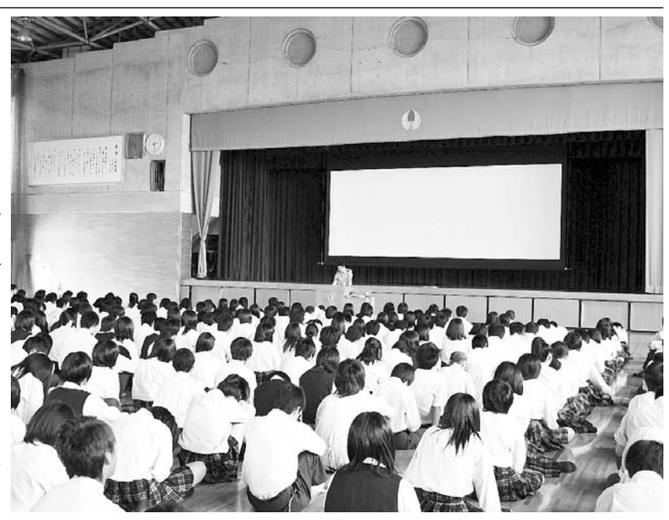
あいさつの仕方などを確認した

来春の就職を目指す本校生徒を対象とした就職活動パワーアップセミナーが10日、新宮商工会議所で開かれた。男子3人、女子18人の合計21人の生徒が参加し、学校とは違った空間での進路学習に真剣に取り組んだ。
講師は特定社会保険労務士の南靖司さん。南さんは自分を知ることの大切さ、面接の受け方や対策など、精神面からマナーまで生徒にわかりやすく指導。生徒は就職活動のガイドブックを見ながら南さんの話す内容を熱心にメモしていた。
細部にわたっての身だしなみやあいさつの仕方のチェック、面接の一連の流れなど今回のセミナーで新たな積み重ねができたのではないだろうか。
就職難がささやかれる昨今、不安でいまだ先の見えない状況を日々の小さな積み重ねが自信を生み、道はだんだんと開けてくると信じている。

交通ルールを守る大切さ

―交通安全講話―

全校生徒を対象に交通安全講話があった。この行事は毎年開かれ、今年も新宮警察署と連携し、生徒に交通ルールを守ることの大切さを伝えた。
講師の金谷信一交通課長は、過去、実際に起きた自転車事故の事例を取り上げ、自転車を運転するとき、ルールやマナーをしっかり守れば事前に事故は防ぐことができる。最近では、とくに携帯電話を操作しながら自転車に乗る人が増えてきたので、これは非常に危険な行為なので絶対にしないようにといい、また、自転車の盗難を未然に防ぐためにも鍵を必ずかけるようにしてほしいと述べた。



◆先生の紹介◆

下平崇弘先生（27）

はじめまして、今年度からお世話になっております下平崇弘です。1年5組の副担任と担当教科は保健体育、部活動はソフトテニス部の顧問をしています。
私は新宮商業高校の出身で、高校生の時には先生方や先輩、後輩、仲間とのたくさんの思い出があり、高校生活の中でいろいろなことを学びました。現在では、校名や学科、制服など変更になった部分も多々あり、戸惑うこともありますが、母校に誇りを持ち、母校で勤めることをとてもうれしく思っています。
本校の生徒は素直で明るく元気があり、友達を大切にする優しい心を持っていると思います。そして、生徒たちは毎日勉強に、クラブ活動に全力で一生懸命頑張っています。その頑張っている生徒の姿を見て私自身も勉強になることが多いと感じている日々です。
私は小学校2年生からサッカーを始め、大学生まで続けました。高校時代には、新宮商業のサッカー部員として、たくさんのことを学びました。恩師の先生にはサッカーの技術だけでなく、あいさつや言葉遣いなどの礼儀を学び、また仲間とともに喜んだり、悲しんだり、一つの目標に向かって努力することの大切さや苦しいとき、辛いときには妥協せずに一つ一つの壁を乗り越えるために頑張らなければならないということなど、人としての在り方を教えていただきました。私自身が経験したことや学んだことを生徒たちに伝え、指導し、さらに自分自身も生徒たちとともに成長していきたいと思います。
本校は、自分の可能性を最大限に伸ばすことのできる素晴らしい設備が整っています。高校生活の3年間は、長いようであり、短くもあります。その3年間で一つでも多くの目標を持ち、その目標に向かって一生懸命努力し、決して楽で安易な道を選ばず、自分に厳しく困難な道を選び、心身ともにたくましくなって、悔いのない人生を歩んでいってほしいと思います。私自身まだまだ至らない点が多く、日々努力し頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

クラブ紹介

陸上競技部

男子4人、女子6人の計10人で活動している。人数は決して多いとはいえないが、一人一人が自己記録の更新を目指して日々練習に励んでいる。
陸上はただ走るだけ、地味でしんどい、そういう風に思っている人も少なくないと思う。しかし「走る」という動作はとても奥の深いもの。自分がどのように走っているか、そのフォームを意識したことがあるでしょうか？多くの人は、小さいころに外で走り回って遊んでいるときも、運動会の徒競走のときも、自分が最も走りやすいように走っている。それが利にかなった走り方かどうかなど、ほとんど意識したことはないと思う。走るのが速い人は、利にかなった走り方をしているから速く走れるのであって、生まれ持っての才能だけで足の速さは決まらない。どんな人でも速く走るための練習をすれば足は速くなる。
部員全員が高校から本格的に競技を始めたが、みんな入部当初に比べると、確実に速く走ることができるようになっている。なかには練習を始めて半年も経たないうちに、経験者がほとんどを占める大会を勝ち上がり、近畿大会出場を果たした選手もいる。もし興味を持ってもらえる人がいたら、是非私たち陸上競技部員とともに汗を流しましょう。よろしくお願いします。
陸上競技の魅力の一つは、自分が努力をした結果が数値に現れるというところだと思う。日々の練習に耐え、試合で自己記録を更新したときの喜びは、競技をやった選手にしか味わえないもの。その達成感を得るためには、常に今の自分よりも強くなりたいという意識を持って練習に取り組むことが大切。さらに競技を離れたところでの言動も重要になる。あいさつや言葉遣いはもちろん、周囲への感謝の気持ちを忘れない心など、人間的な成長なくして競技力の向上は望めない。「継続は力なり」、この言葉が陸上競技部の信念。
貴重な高校生活3年間の中で、陸上競技を通してたくさんのことを学び、大きく成長できるよう、これからも活動を続けていきたいと思っている。